

第51回 関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会栃木大会参加報告

第51回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会栃木大会が、関東甲信越地区から約1000名の副校長、教頭が参加し、平成22年11月11日(木)・12日(金)の両日、栃木県宇都宮市で開催された。大会では、研究主題「生きる力をはぐくむ豊かな学校をめざして～夢に向かい生き生きと輝く子どもの育成～」のもと、第八期全国統一研究3年次として、研究の集大成及び総括に向けた熱心な研究討議が行われた。一日目の全体会では、開会行事の他、地元宇都宮市出身の倉沢大樹氏によるエレクトーン演奏、日光アイスパックスシニアディレクターのセルジオ越後氏による「地域とスポーツの力」と題した記念講演が行われた。二日目は、6課題14分科会に分かれて研究協議が行われた。以下は、参加した「第3(1)施設・設備及び事務に関する課題」分科会の報告を記す。

1 分科会提言の概要

本分科会は、山梨県から「学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善」、栃木県から「豊かな学校づくりのための施設・設備の在り方」を研究主題とする2つの提言があり、14の小グループごとに活発な意見交換がなされた。

(1) 第1提言者研究の概要 (提言者 山梨県甲州市立勝沼小学校 加藤幸夫)

- ① 研究主題 「学校教育を効果的に進める学校施設・設備の改善」
－安心・安全な環境づくりと教頭のかかわり－

② 研究概要

山梨県の提言では、施設・設備の活用・保全に関すること、防災及び避難場所としての施設・設備に関すること、学校事故に関することの3点から、研究報告があった。

保全・活用に関することでは、「所持状況リスト」を作成し、学校に必要な大型機器や機械類の共有利用化を目指した取組、防災・安全に関することでは、「避難所マニュアル」及び「安全マップ」を作成し、地域防災や児童生徒の安全確保に取り組んだ事例、学校事故に関することでは、事故を未然に防ぐために、安全点検の内容を工夫した事例が報告され、安全な環境づくりと教頭の役割に視点を当てた提言がされた。

③ 成果と課題

成果として、施設・設備の活用・保全に関する現状、課題、対応策などの情報を共有することは、有効利用の方法を見出す資料となることや限られた予算を効果的に運用する視点をもつことの大切さが確認された。また、地域防災や安全マップの取り組みから、教頭として教職員の意識をつくるのが大切であること、施設・設備の設置基準や安全基準などの知識を確実に身に付けることが、適切な課題の対処方法の基本となることが確認された。

(2) 第2提言者研究の概要 (提言者 栃木県小山市立小山城南中学校 山本源一 先生)

- ① 研究主題 「豊かな学校づくりのための施設・設備の在り方」
－施設・設備、事務の管理の視点から－

② 研究概要

栃木県の提言では、施設・設備の有効活用、施設保全のための組織の活用、事務の効率化の3点から、研究報告があった。

施設・設備の有効活用については、防災教育や学社連携、異校種間連携等の視点からの活動事例が紹介された。具体的には、使われなくなった給食室を高齢者福祉施設として活用し、生徒と高齢者の交流事業に取り組んでいる事例、学校と近隣の公共施設が連携し、互いのトイレや駐車場、プールの水(防火用水)などの施設を提供し合って、利便性や安全性を図っている事例などが紹介された。施設保全のための組織の活用については、PTAや地域ボランティアの協力で、老朽化した学校施設の修繕に取り組んでいる事例、中高連携の活動を教育課程に位置付け、未整地を庭園に整備した事例が紹介された。事務の効率化については、市内学校間で統一した文書分類表を作成した事例、共有ドライブの活用で、校内事務の省力化や市内教頭間の情報の共有化を実現した事例などが紹介された。

③ 成果と課題

これらの取り組みをとおして、施設・設備の有効活用や保全のための組織活用が図られたことや事務の効率化によって教職員の負担軽減が図られことなどの成果が報告された。

2 指導助言とまとめ

助言者から、2本の提言に対して、教頭として果たすべき役割と責任、組織間の連携や行政へのはたらきかけの在り方などの視点から講評をいただいた。

今次研究大会では、共同研究すばらしさや各学校の努力のようすとその成果を改めて実感することができた。この成果を、これからの研究並びに各校・各自の実践に生かしていきたい。最後に、関プロ研究栃木大会に参加・提言の機会をいただいたことに感謝し、報告とする。

(課題別研究部長 加藤幸夫)